

佐久をもっと好きになる

久佐報広

SAKU NO MIJIKANA JOHO.

別冊

令和7年11月

KOHO SAKU



出典：国武貞克「香坂山遺跡2021年発掘調査成果報告書」

祝 国史跡指定

こう さか やま
香 坂 山 遺 跡

せきじん せっき ぐん
-日本最古の石刃石器群が出土した遺跡-

佐久市教育委員会 文化振興課 文化財事務所 ☎63-5321

国史跡 香坂山遺跡

「日本人の起源を求めて」



静けさに包まれた香坂山遺跡。

ここは、私たちが知る日本の歴史より、はるかに古く、壮大な物語の始まりの地です。今から3万6800年前、ユーラシア大陸から海を越え、はるか遠い道のりをたどってきた人々が、この日本列島に足を踏み入れた、その最初の足跡が、この地に深く刻まれています。

彼らが残したのは、鋭く打ち欠かれた「大型石刃」おおがたせきじん「小石刃」しょうせきじん「尖頭形剥片」せんとうけいはくへんという三種類の石器。これらの石器は、当時の人々が持っていた並外れた技術と、氷河時代の過酷な環境を生き抜くための知恵を雄弁に物語っています。

この石器が持つ最大の意味は、その形や作り方が、ユーラシア大陸の古い時代のもものと驚くほど一致することです。この一致は、偶然ではありません。それは、日本列島の旧石器時代の文化が、大陸の壮大な歴史と深くつながっていることを示す、揺るぎない証拠なのです。

香坂山遺跡は、日本列島が孤立した場所ではなかったことを証明しています。

私たちは、遠い祖先が海を渡り、過酷な旅を経てこの地にたどり着いた、その場所_{ところ}に立っているのです。この遺跡は、人類の果てしない旅路と、私たちのルーツを静かに教えてくれます。

現生人類の移動と香坂山遺跡の価値

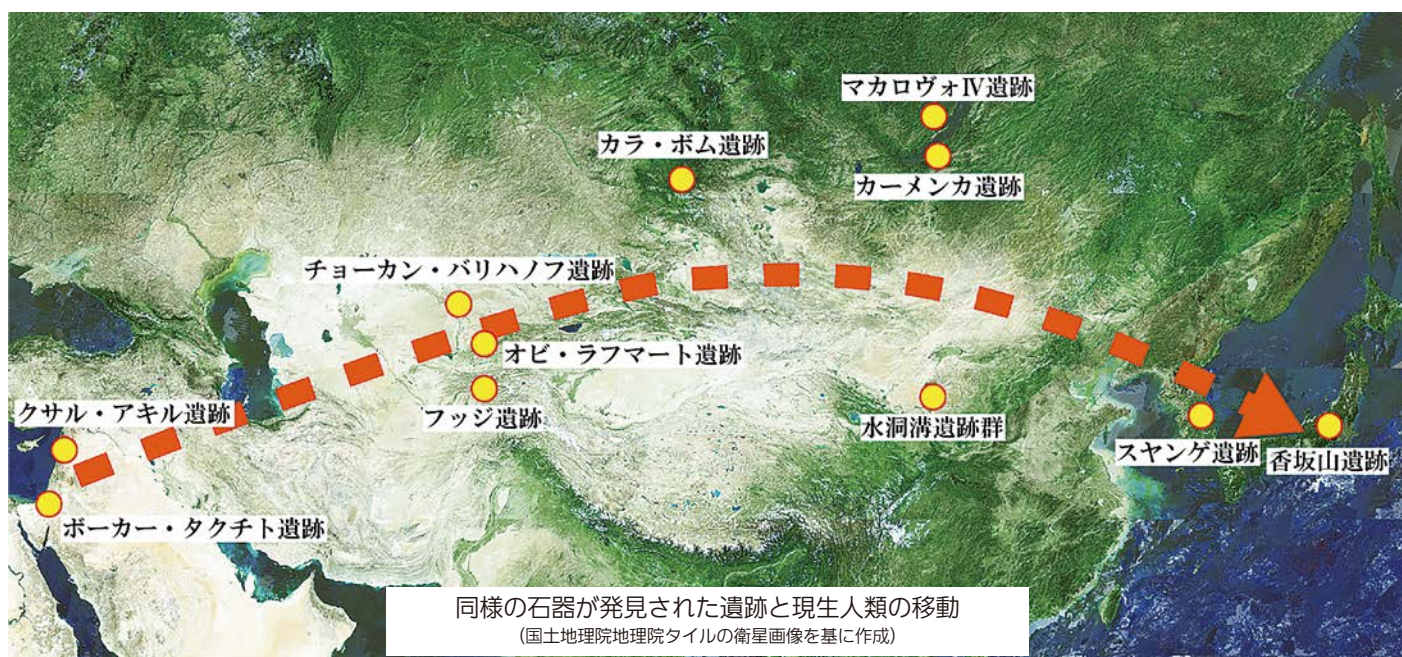
香坂山遺跡の発見は、現生人類（ホモ・サピエンス）が約30万年前にアフリカで誕生し、約5〜4万年前にユーラシア大陸へ拡散した際の、日本列島への到達ルートや時期、日本列島の石刃石器群の起源を考える上で、重要な知見をもたらしました。出土したのは、「大型石刃」^{おおがたせきじん}「小石刃」^{しょうせきじん}「尖頭形剥片」^{せんとうけいはいぺん}という三種の石器で、香坂山遺跡より古いユーラシア大陸の遺跡からもこれら三種の石器が発見されています。これらの石器は、作り方や形も大陸のものと類似しています。この共通性は、現生人類が日本列島に到達する際に、中央アジアや中国などを経由してきた可能性を示しています。彼らは、大陸で洗練された石器製作技術を身につけ、狩猟や加工に用いた道具を日本列島にもたらしたのです。

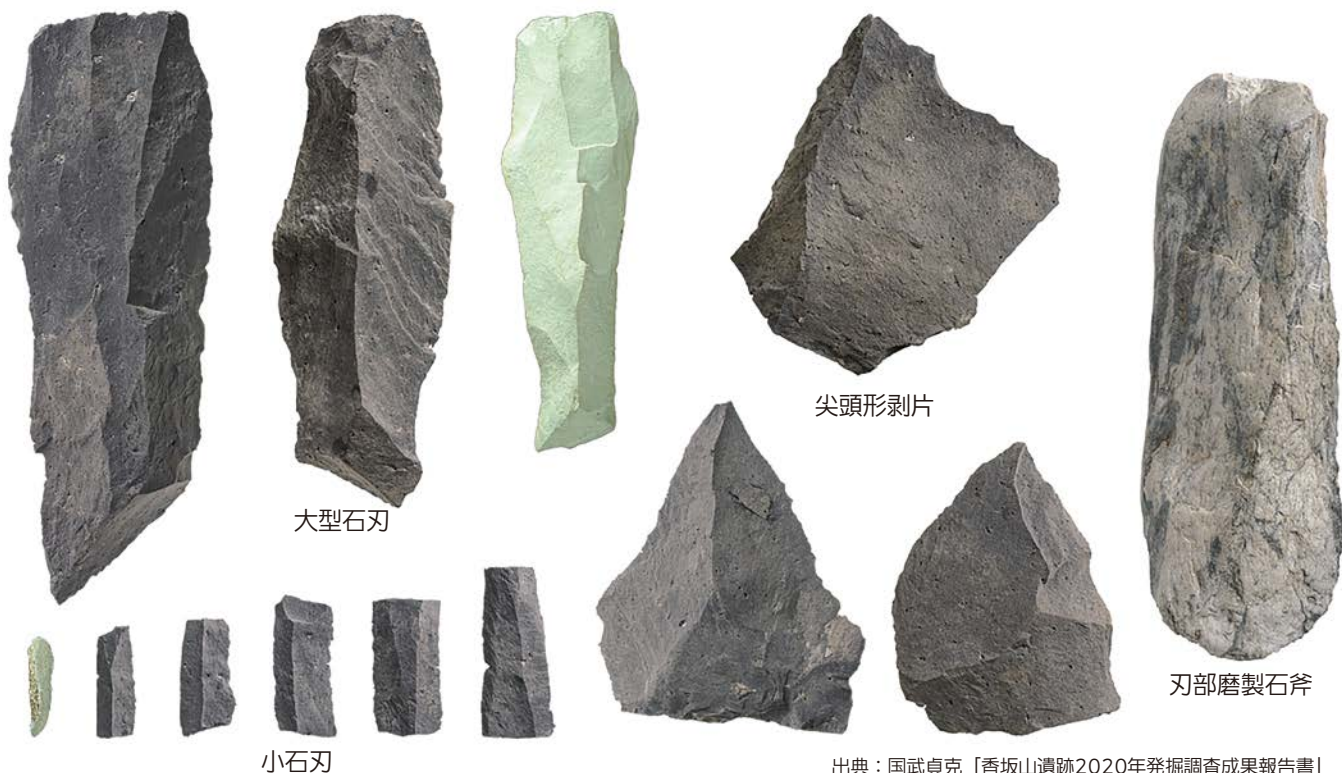


発掘調査の様子（国武貞克氏提供）



柳田市長による視察





尖頭形剥片

大型石刃

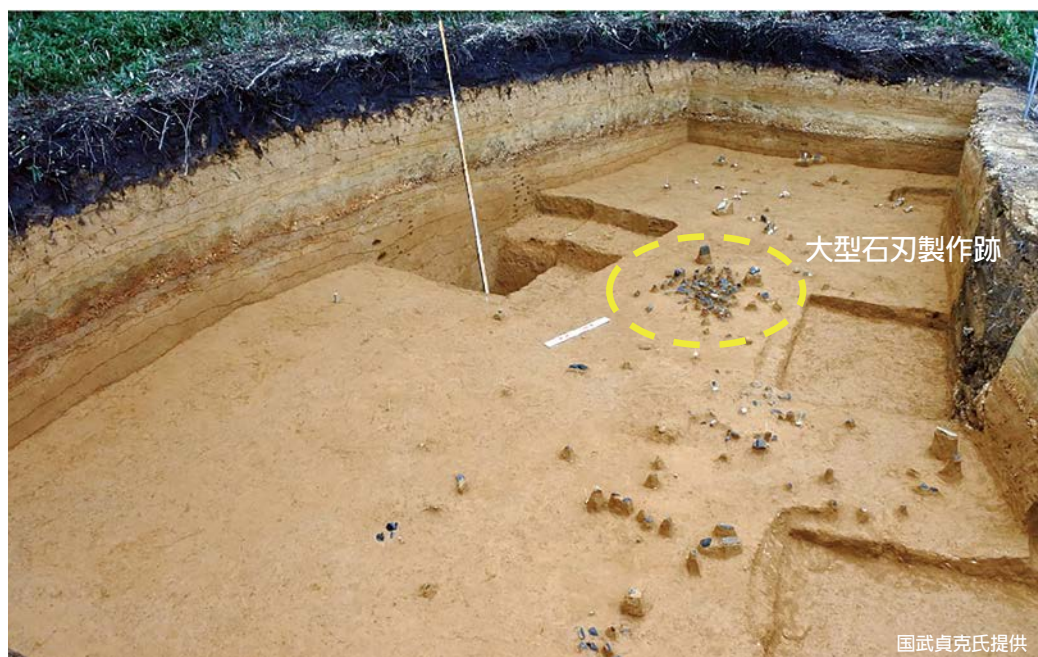
刃部磨製石斧

小石刃

出典：国武貞克「香坂山遺跡2020年発掘調査成果報告書」
国武貞克「香坂山遺跡2021年発掘調査成果報告書」
佐久市教育委員会「香坂山遺跡総括報告書」

香坂山遺跡の石器

香坂山遺跡で出土した主要な石器は、「大型石刃」^{おおかたせきじん}「小石刃」^{しょうせきじん}「尖頭形剥片」^{せんとうけいはくぺん}という三種の石器で、「刃部磨製石斧」^{じんぶませいせきふ}という石器も見つかりました。これまでは、日本の石刃石器群の起源について、大陸から技術が伝播^{でんぱ}してきたのか、日本列島内で独自に発生した技術なのかが分かっていませんでした。しかし、香坂山遺跡で大陸と共通する構成を持った石刃石器群が発見されたことにより、日本の石刃石器群の起源が大陸にあったことが分かりました。それでは、香坂山遺跡で発見されたそれぞれの石器は、どのようなものか見ていきましょう。



大型石刃製作跡

国武貞克氏提供

石器の出土状況（中央部の黄線内で大型石刃を製作していたことがわかる）

大型石刃 石器の両側縁がおおよそ平行で、石器の幅に対して長さが2倍以上の石器を「石刃」と呼びます。石刃の中で特に大型のものを「大型石刃」と呼んでいます。

小石刃 石刃の中でも小型の石刃を小石刃と呼んでいます。石器の接合関係から、大型石刃を素材にして作られていることが分かりました。

尖頭形剥片 出土した石器の中で先の尖ったひし形の石器を尖頭形剥片と呼んでいます。石器を剥がした方向と先端の方向がずれているのが特徴です。

刃部磨製石斧 ユーラシア大陸の旧石器時代には見られない日本特有の石器です。刃の部分が磨かれており、斧として利用されたと考えられています。

香坂山遺跡の堆積と年代

香坂山遺跡の石器群は、地表から約2m掘り下げた場所で発見されました。その上には、複数の火山の噴火によって堆積した火山灰の層が重なっており、それぞれの噴出年代が特定されています。特に約3万年前に鹿児島県の火山から噴出した始良丹沢火山灰^{あいらたんざわ}は、北海道を除いて日本中で確認される年代特定のための目印です。さらにその下には、約3万5000年前に八ヶ岳から噴出した火山灰の層が堆積しています。

香坂山遺跡の石器群は、この約3万5000年前の八ヶ岳由来の火山灰層よりもさらに下の層から見つかりました。この地層の上下関係だけでも、石器群が非常に古いものであることが分かりますが、年代をより精密に特定したのが放射性炭素年代測定法です。石器と一緒に出土した複数の炭化物を科学的に分析し、石器群の年代は、約3万6800年前という正確な数値が割り出されました。

香坂山遺跡の土層堆積

浅間山由来の火山灰
(約16,000～
29,000年前)

始良丹沢火山灰(AT)
(約30,000年前)

八ヶ岳由来の火山灰
(約35,000年前)

石器が出土した層

地表面

1
m

2
m

佐久市教育委員会による調査

佐久市教育委員会では、香坂山遺跡からユーラシア大陸と共通する構成の石器群が発見されたことを受け、遺跡の国史跡指定をめざして、令和4、6年度に遺跡の範囲を確認する発掘調査を行いました。

複数の追加調査区を設定・実施し、通常の調査が難しい場所ではボーリング調査を行い、遺跡周辺の土の堆積状況や傾斜を分析しました。その結果、石器がどこまで分布しているかが推定でき、遺跡の範囲を特定することができました。また、それまでの発掘調査では、出土していなかった緑色凝灰岩という石を使った石刃が見つかりました。



香坂山遺跡の推定範囲

日本列島の文化との融合

香坂山遺跡からは、刃の一部が磨かれた刃部磨製石斧という石器が2点見つかりました。これは、ユーラシア大陸の同時期の文化には見られない、日本列島特有の石器です。また、出土した尖頭形剥片の作り方についても、日本列島に元々あった旧石器文化との接触の可能性が指摘されています。この発見は、大陸から石刃の技術を持って渡来した現生人類が日本列島独自の技術と接触し、在地の技術を取り入れていたことをあらわしています。

このように香坂山遺跡の存在は、日本列島への現生人類の到達を具体的に示すとともに、その後の日本列島の文化が、外来文化と在地文化の融合によって形成されたことを物語る貴重な証拠となっているのです。

香坂山遺跡の史跡指定

香坂山遺跡は、日本史、ひいては人類史を語る上で欠かせない遺跡として学術的重要性が評価され、国史跡に指定されました。日本最古の国史跡であり、国内外からも注目されています。国が史跡として指定することで、保存に影響を及ぼす行為を制限し、遺跡の適切な保存と活用を図ることが出来ます。

香坂山遺跡の歴史的意義

香坂山遺跡は、日本列島に最初に到達した現生人類の持っていた技術を具体的に示し、日本人の祖先がいつ頃、どのようにこの地にたどり着いたかを考える上で重要な鍵を握る、いわば「日本人のルーツ」を物語る貴重な場所です。また、ユーラシア大陸との関連性から、日本史のみならず、人類の移動と文化の交流という世界史を理解する上でも重要な意味を持つ遺跡であり、その史跡としての価値は計り知れません。このような遺跡が佐久市で発見されたことは、教育や地域振興等においても重要な役割を果たすと考えられるため、佐久市教育委員会では、今後保存活用計画を策定し、計画に基づいて保存活用していく予定です。

市内の国史跡

佐久市内では、龍岡城跡と旧中込学校が国史跡に指定されています。

国史跡 龍岡城跡

龍岡城跡は、特別史跡五稜郭跡（函館市）とともに日本に二つしかない星形稜堡を持つ洋式城郭です。大給松平氏が信州に本拠を移した後、1864年に築城を開始し、1867年に竣工しました。廃藩後の1872年には、城が取り壊されましたが、現在でも濠と石垣、当時の建物の一部であるお台所は残っており、1934年に国史跡に指定されました。

国史跡 旧中込学校

旧中込学校は、1875年に建築された、現存する日本最古級の擬洋風学校の一つです。当時珍しかったガラスを使用したため、「ギヤマン学校」とも呼ばれました。1969年に校舎が重要文化財に指定され、敷地についても国史跡に指定されました。



国史跡 旧中込学校



国史跡 龍岡城跡

香坂山遺跡 国史跡指定記念式典 開催案内

令和7年9月18日付けの官報告示により香坂山遺跡が国史跡に指定されたことを祝しまして、記念式典を開催します。

■日 時

11月16日（日）
10：00～11：50

■会 場

市民創錬センター 大会議室

■内 容

- ・基調報告「香坂山遺跡の範囲と形成過程」
報告：佐久市教育委員会
- ・功労者表彰
- ・記念講演「香坂山遺跡の残したもの」
講師：国立文化財機構 奈良文化財研究所
国武 貞克 氏

■定 員

先着150名まで（午前9時30分受付開始）
※先着順に整理券を配布します。

■注意事項

- ・当日は、下記シンポジウム「香坂山遺跡からさぐる日本列島 現生人類の起源」の開催時間中に香坂山遺跡国史跡指定記念式典を行います。
- ・シンポジウムと記念式典のどちらか一方のみの参加も可能です。

どちらも
入場無料

長野県考古学会主催 佐久市教育委員会共催 シンポジウム
香坂山遺跡からさぐる日本列島 ホモ・サピエンス 現生人類の起源

■日 時 1日目 11月15日（土） 13：00～17：00
2日目 11月16日（日） 10：00～16：00

■会 場 市民創錬センター 大会議室

■内 容 先端研究に取り組む考古学・人類学者による講演

■定 員 先着150名まで（1日目は、正午より受付開始）※先着順に整理券を配布します。
内容・詳細は市ホームページをご覧ください。

■ご案内



香坂山遺跡総括報告書



香坂山遺跡の位置

■お問合せ

佐久市教育委員会 文化振興課 文化財事務所
〒385-0051 長野県佐久市中込2913
TEL：0267-63-5321
FAX：0267-63-5322